

洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討ワーキンググループの設置

案

〇趣旨

気候変動の影響等により大規模水害発生のおそれが高まっていることから、避難時の大混雑や多数の孤立者の発生が懸念される首都圏等における、洪水や高潮氾濫からの大規模かつ広域的な避難の在り方等を検討するため、中央防災会議に設けられている防災対策実行会議の下にワーキンググループを設置する。

（三大都市圏等における具体的な避難計画の立案にあたり、国・地方公共団体が直面している課題を解決）

〇論点

- ・地区毎の避難開始タイミングの考え方
- ・立退き避難時の混雑緩和の考え方
- ・浸水区域内に留まらざるを得ない場合の考え方
- ・市区町村の境界を越えた避難所確保の考え方
- ・避難・救出のための氾濫水制御の考え方
- ・国・都府県の関わり方 など

〇メンバー

- ・学識経験者
- ・関係省庁
- ・都、区
- ・交通事業者

〇進め方

洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討WG

基本的な方針
制度改善の必要性等

（今回新たに設置）

連携

具体的な避難方法等

荒川下流域における協議会等

※大都市圏における地元自治体による協議会等が結成されれば随時連携

荒川右岸低地氾濫の被害想定

①浸水範囲（最大浸水深目）



②浸水面積

約110km²

③浸水区域内人口

約120万人

④死者数

約2,000人

⑤孤立者数

最大約86万人

（決壊1日後）

⑥地下鉄等の浸水被害

17路線、97駅、
約147km

（対策が現況程度の場合）

【死者数の算出条件】・65歳以上：住宅・建物の最上階の居住階まで避難
・65歳未満：住宅・建物の屋根の上等に避難

【降雨条件】流域平均雨量 約550mm/3日（流域面積約2,100km²）